

第 1 章

国際 6 都市の 小学生に関する意識・実態

宮本幸子 (1 節 1 項)

邵 勤風 (1 節 2～3 項、2 節 5 項、3 節 8 項、4 節)

鈴木尚子 (2 節 1～2 項、3 節 7 項)

十河直幸 (2 節 3 項)

河村洋子 (2 節 4 項、3 節 1～6 項)

木村治生 (全体まとめ)



学校での学習の様子

1. 好きな教科

「国語」や「算数・数学」などの教科の「好き」の割合は、北京では8割を超えるが、それ以外の都市では5～7割程度である。いずれの都市でも「体育」を「好き」と回答する割合が高く、全体として実技教科を好む傾向がみられる。

* 初等教育で履修する教科は、国や都市によって異なる。そのため今回の調査では、その都市の実態に即して、教科の項目を設定した。したがって、それぞれの都市に共通している教科もあるが、異なる教科もある。また、都市によっては、履修する教科やその内容が学校によって異なるケースもある。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

東京

表1-1-1 東京のある小学校の時間割例（小学5年生）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00					
9:00	8:50~9:35 図工/社会	国語	理科/国語	社会	算数
10:00	9:40~10:25 図工/道徳	体育	国語	国語	道徳/体育
11:00	10:45~11:30 理科	理科	総合	家庭	音楽
12:00	11:35~12:20 国語	算数/音楽	算数	家庭	国語
13:00	昼食・休み時間				
14:00	13:40~14:25 算数	算数	学活/算数	体育	総合
15:00	14:30~15:15	社会			総合
16:00					

注1) 複数の教科が示されている時間帯は、週によって実施する教科を変えている。

注2) 一部の教科や時間について、名称を略記した。

図1-1-1 好きな教科（東京）

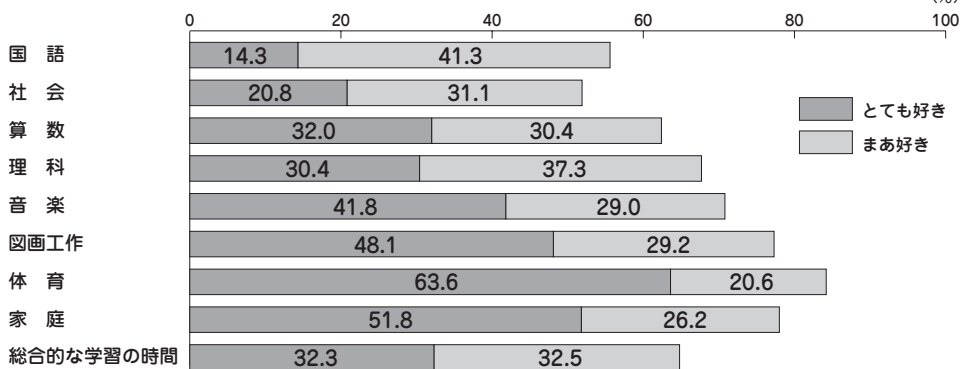


図1-1-1をみると、もっとも人気が高いのは「体育」で、「好き」（「とても好き」＋「まあ好き」の％、以下同）の割合は8割を超える。これに「家庭」（78.0%）、「図画工作」（77.3%）、「音楽」（70.8%）が続き、実技教

科を好んでいる様子が見える。実技教科以外では「理科」と「算数」の人気が高めで、いずれも6割以上が「好き」と回答している。これとは反対に文系教科では「好き」の割合が低く、「社会」では51.9%にとどまっている。

ソウル

表 1-1-2 ソウルのある小学校の時間割例（小学 5 年生）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日 注 5	
8:00							
9:00	9:00~9:40	数学	国語	国語	数学	社会	国語
10:00	9:50~10:30	体育	英語	音楽	美術	数学	音楽
11:00	10:40~11:20	コンピューター	科学	社会	美術	道徳	体育
12:00	11:30~12:10	国語 注 1	科学	体育	英語	国語	特別活動
13:00	12:10~13:00	昼食・休み時間					
14:00	13:00~13:40	実科 注 2	数学		国語	科学	
15:00	13:50~14:30	社会	裁量活動 注 3		特別活動 注 4	実科	
16:00							

注 1) 「国語」は、「読む」と「話す・聞く・書く」で構成されている。

注 2) 「実科」は、日本の「技術・家庭」に相当する。

注 3) 「裁量活動」は、学校独自の裁量で行われるもので、情報教育、漢文（漢字）、外国語、環境教育、読書などを行っている学校が多い。

注 4) 「特別活動」は、学級会などを行う時間。

注 5) 土曜日は隔週で授業を行っている。

図 1-1-2 好きな教科（ソウル）

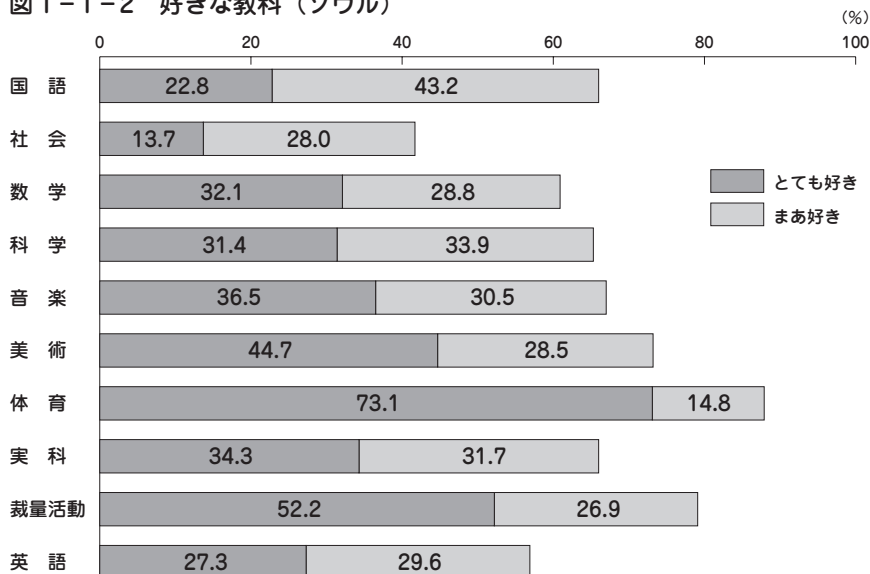


表 1-1-2 で時間割をみてみると、まず他都市と異なり土曜日に授業があることに気づく。韓国の小学校では、隔週で土曜日に授業を実施するのが一般的である。教科は全体的に日本と似通っているが、「英語」が必修教科に設定されている点が大きく異なる。

図 1-1-2 をみると、9 割弱の小学生が体育を「好き」（「とても好き」＋「まあ好き」の％、以下同）と回答しており、人気の高さ

が際立っている。以下、「裁量活動」（79.1％）、「美術」（73.2％）、「音楽」（67.0％）と続いている。もっとも好まれていない教科は「社会」（41.7％）で、「とても好き」は 13.7％にとどまる。実技教科の人気が高く、「社会」の人気が低い傾向は東京と似ている。「社会」の他には、「英語」を「好き」（56.9％）とする比率も他の教科と比較すると低くなっている。

北 京

表 1-1-3 北京のある小学校の時間割例（小学 5 年生）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00					
9:00	8:40~9:20 音楽	数学	音楽	数学	体育
10:00	9:30~10:10 数学	国語	数学	総合実践活動注4	数学
	10:15~10:55 国語	科学	国語	国語	国語
11:00					
	11:05~11:45 英語	英語	美術	国語	美術
12:00	昼食・休み時間				
13:00					
14:00	13:50~14:30 クラス会	品徳と社会	写字注3	科学	
15:00	14:40~15:20 品徳と社会注1	体育	英語	健康注5	
16:00	15:35~16:15	校本注2	体育		

注 1) 「品徳」は、日本の「道徳」に相当する。

注 2) 「校本」は、学校独自の課程。

注 3) 「写字」は、硬筆のこと。教育委員会では硬筆でも毛筆でも可としているが、この学校では硬筆を選択している。

注 4) 「総合実践活動（労働技術）」を略記した。「総合実践活動」（日本の「総合的な学習の時間」に近い）の一環として、この学校では「労働技術」を実施している。

注 5) 「健康」は、自分の年齢に応じた身体変化への理解に関する授業を行う。

図 1-1-3 好きな教科（北京）

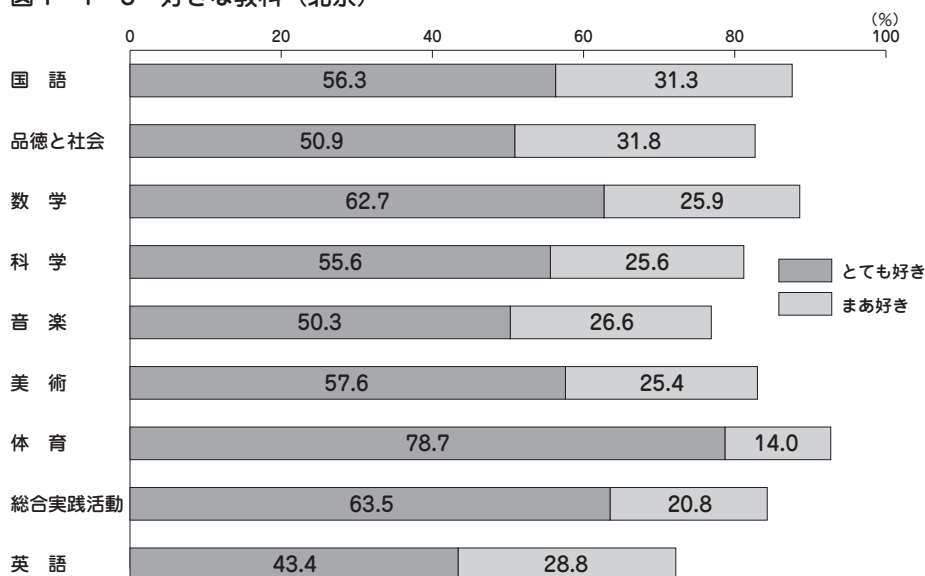


表 1-1-3 の時間割をみると、北京では他都市と比べて「昼食・休み時間」が長く、2 時間ほどにおよぶ。この間に一度帰宅して食事をとる小学生もいる。教科をみると、ソウルと同様に「英語」が必修教科となっている。

図 1-1-3 をみると、全体的に「好き」の比率が高いのが特徴である。「とても好き」

だけを見ても、ほとんどの教科で過半数に達している。もっとも人気があるのは「体育」（「とても好き」＋「まあ好き」の％、以下同）92.7%だが、「国語」（87.6%）、「品徳と社会」（82.7%）、「数学」（88.6%）、「科学」（81.2%）などの教科でも、「好き」の割合が 8 割を超える。もっとも「好き」の比率が低いのは「英語」で、72.2%である。

ヘルシンキ

表 1-1-4 ヘルシンキのある小学校の時間割例（小学 4 年生）注 1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00					
9:00	8:30~9:15				国語・文学
10:00	9:15~10:00	英語	環境と自然の知識		
11:00	10:15~11:00	国語・文学	算数	国語・文学	算数
12:00	11:00~11:45	昼食・休み時間			英語
13:00	11:45~12:30	算数	美術	音楽	美術
14:00	12:30~13:15	環境と自然の知識注2	宗教・道徳	環境と自然の知識	国語・文学
15:00	13:30~14:15	家庭科・技術	体育	国語・文学	演劇活動注3
16:00	14:15~15:00	家庭科・技術	体育		

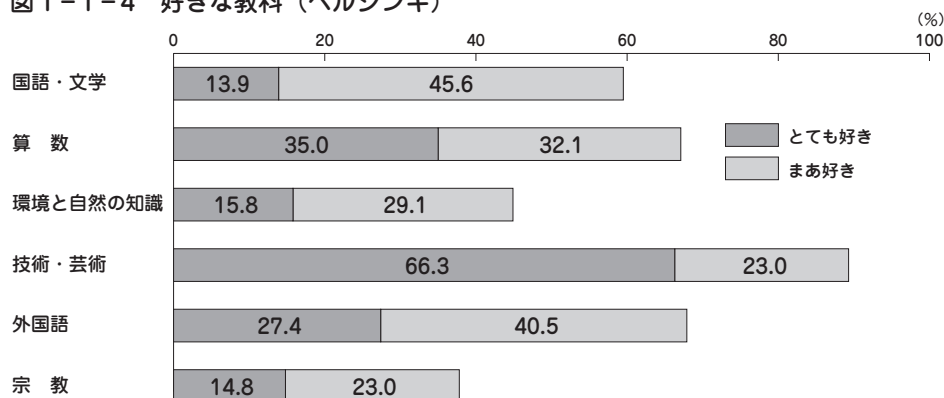
注 1) フィンランドでは小学 4 年生が日本の小学 5 年生（10・11 歳）に相当する。詳しくは、p. 13 を参照。

注 2) 「環境と自然の知識」は、環境、地理、生物、物理、化学の内容を含む総合的な教科。

注 3) 「演劇活動」は多くの学校で取り入れられており、保護者などを観客として招いて、年に 1～数回の発表会を行う。

注 4) 社会科は、小学 5 年生から「歴史」を履修することになっている。

図 1-1-4 好きな教科（ヘルシンキ）



注) 「技術・芸術」には、美術、音楽、手工芸（家庭科・技術）、体育などが含まれている。フィンランドではカリキュラムの柔軟性が高く、複数の実技教科を融合して指導するケースがあるため、本調査では「技術・芸術」としてたずねた。

表 1-1-4 の時間割をみると明らかなように、まずヘルシンキでは授業の開始時刻が日によって異なるのが特徴である。また、他都市でたずねている「社会」に相当する教科がみられない。フィンランドでは小学 4 年生が日本の小学 5 年生（10・11 歳）に相当するが、社会科については小学 5 年生から「歴史」を履修することになっているため、時間割や今回の調査項目には含まれていないのである。

それでは、図 1-1-4 で各教科を「好き」の比率をみてみよう。「好き」（「とても好

き」＋「まあ好き」の％、以下同）とする回答がもっとも多かったのは、「技術・芸術」（89.3％）である。実技教科をまとめてたずねているために内訳は不明であるが、ヘルシンキでもその人気が高いことがわかる。これに続くのは、英語やドイツ語などを教える「外国語」（67.9％）、「算数」（67.1％）である。「環境と自然の知識」や「宗教」を「好き」とする比率は他の教科に比べると低く、4 割前後にとどまっている。

ロンドン

表 1-1-5 ロンドンのある小学校の時間割例（小学6年生）注1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00					
9:00					
10:00	9:00~10:20 国語注2	国語	算数	算数	算数
11:00	10:55~12:15 歴史/地理(前半) 体育(後半)	理科	国語	宗教(前半) 体育(後半)	国語
12:00					
13:00	12:15~13:30 昼食・休み時間				
14:00	13:30~14:35 算数	算数	理科	国語	ICT/PSHE
15:00	14:45~15:30 美術・デザイン注3	音楽	ICT/PSHE注4		
16:00					

注1) イギリスでは小学6年生が日本の小学5年生（10・11歳）に相当する。詳しくは、p.13を参照。

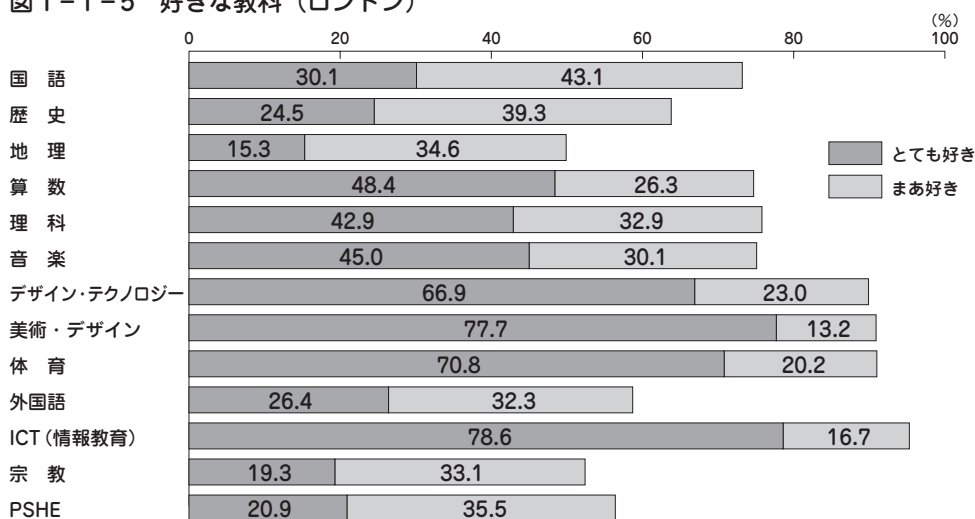
注2) 「国語」はLiteracy, Writing, Readingなどで構成されている。

注3) この時間帯は学期の半分で「美術・デザイン」を実施し、残りの期間は「デザイン・テクノロジー」を実施している。

注4) 「PSHE」は、Personal, Social and Health Educationの略。領域としては薬物教育、シチズンシップ教育、性教育などが含まれるが、時数や内容、運営方法などは各学校の裁量に委ねられている。

注5) 1時限が長いので、前半と後半に分けて2教科実施している時間帯もある。また、「歴史/地理」や「ICT/PSHE」は、週によって実施する教科を変えている。

図 1-1-5 好きな教科（ロンドン）



注) 「宗教」「外国語 (Modern Foreign Language)」は、「履修していない」を除いて集計している（サンプル数はそれぞれ、864名、538名）。「外国語」は、一度は政府が初等学校全体で2010年までに開始するという方針を出したものの、中止した経緯がある。その間に授業を開始し、現在も継続している学校が一部存在する。そのため、本調査では「履修していない」が多く見受けられた。

表 1-1-5 は、ロンドンの6年生の時間割例である。イギリスでは小学6年生が日本の小学5年生（10・11歳）に相当する。「社会」は「歴史」と「地理」に分かれている。また、「ICT（情報教育）」が必修教科になっているのも特徴である。

図 1-1-5 をみると、「ICT」（95.3%）、「体育」（91.0%）、「美術・デザイン」（90.9%）

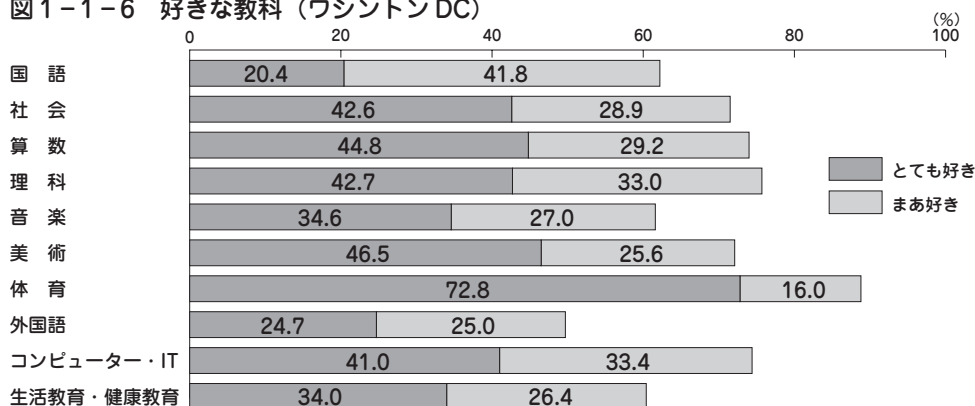
は「好き」（「とても好き」＋「まあ好き」の%、以下同）が9割を超えており、ほとんどの小学生に支持されている。また、「国語」（73.2%）、「算数」（74.7%）、「理科」（75.8%）は4人に3人が「好き」と回答している。それらに比べると、「歴史」（63.8%）、「地理」（49.9%）などの社会科学系の科目は、「好き」の比率が若干低めとなっている。

表 1-1-6 ワシントンDCのある小学校の時間割例（小学5年生）

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00						
9:00						
10:00	9:15~10:00	社会				
	10:00~10:45	理科				
11:00	10:45~11:30	昼食・休み時間				
12:00	11:30~12:45	算数				
13:00						
14:00	12:45~14:15	ランゲージアーツ(国語)注1				
15:00	14:15~15:00	体育・音楽など注2				
	15:00~15:50	コアエクステンション注3				
16:00						

注1)「ランゲージアーツ」は、日本の「国語」に相当する。「聞く・話す・読む・書く」を総合的に教える。
 注2)「体育・音楽など」は、“Encore”という授業名で、日によって、美術、体育、コンピューター、音楽、図書室（主に読書や調べもの）などを行っている。
 注3)「コアエクステンション」では、学年で週ごとに重点教科を決めて教えている。
 注4)他都市の事例と異なり、月曜日から金曜日まで、基本的に毎日この時間割を実施している。また、教科によって1時限の長さが異なるのも特徴である。

図 1-1-6 好きな教科（ワシントンDC）



注)「音楽」「美術」「体育」「外国語」「コンピューター・IT」「生活教育・健康教育」は「履修していない」を除いて集計している（サンプル数はそれぞれ、945名、949名、930名、304名、884名、444名）。

表 1-1-6 にみられるように、ワシントンDCでは他都市の事例と異なり、月曜日から金曜日まで、基本的に毎日この時間割を実施している。また、教科によって1時限の長さが異なる。「算数」や「ランゲージアーツ(国語)」には長い時間が確保されている。

ワシントンDCでは、学校によって教科の設置のしかたが異なる。たとえば「コンピューター・IT」は、各教科に含めている学校もあれば、独立して教科を設置する学校もある。「外国語」（主にフランス語やスペイン語）や「生活教育・健康教育」の設置も、学校によって異なっている。また、週や日によって実施する教科を変える時間帯もある。時間割例

にすべての教科が含まれていない点、「外国語」などで「履修していない」が多く存在する点には、こうした背景がある。

図 1-1-6 をみると、ワシントンDCでも、小学生の人気No.1の教科は「体育」（「とても好き」+「まあ好き」の%、以下同）88.8%である。それ以外では「理科」（75.7%）や「算数」（74.0%）などの理数系教科で「好き」の比率が高く、「国語」（62.2%）や「外国語」（49.7%）といった語学の授業では低めである。

本項の参考文献

『世界の学校』（二宮皓編著、学事出版、2006年）

2. 授業の理解度

学校での授業の理解度についてたずねた。特徴として、北京では全体的に「わかっている」の割合が高い。東京では、教科による「わかっている」の回答割合の違いがあまり大きくない。一方、ロンドンでは教科によって、「わかっている」と回答する割合がかなり異なっていることがあげられる。

*小学校で履修する教科は、都市や国によって異なる。また教科名が同じであっても、取り組む内容が異なることもある。したがって、ここでは都市ごとに結果をまとめている。



学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

図1-1-7 東京

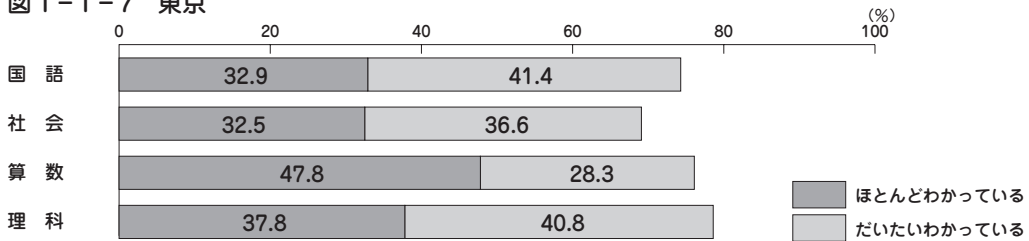


図1-1-8 ソウル

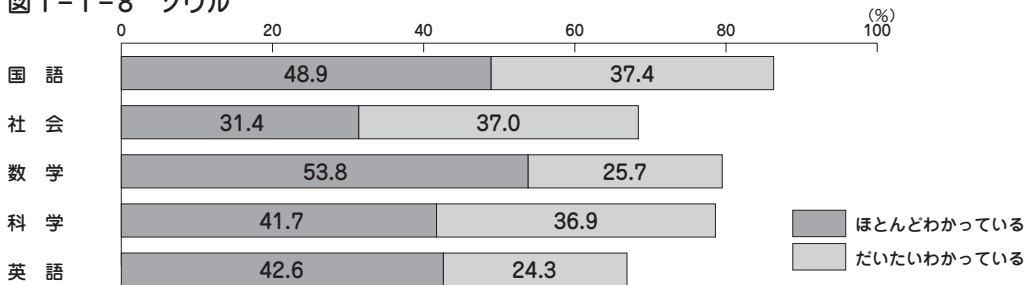
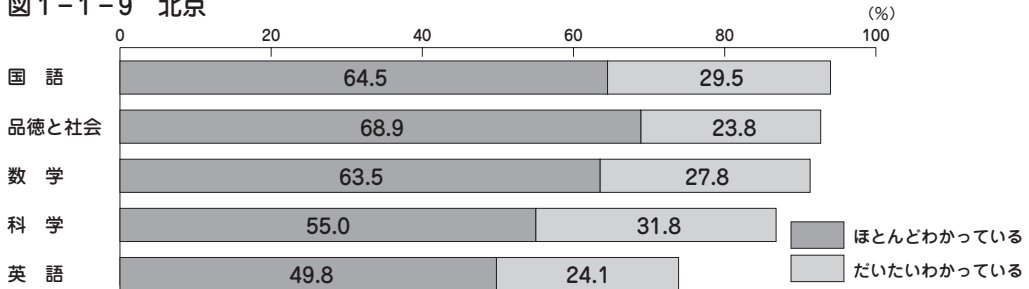


図1-1-9 北京



東アジア3都市の授業の理解度をみると、いずれの都市も「わかっている」（「ほとんどわかっている」＋「だいたいわかっている」の％、以下同）との回答が6割を超える。とくに、北京では「国語」「品德と社会」「数学」

の理解度が9割に達している。一方、「社会」（東京・ソウル）と「英語」（ソウル・北京）を「わかっている」と回答する割合が比較的低い（図1-1-7～9）。

図1-1-10 ヘルシンキ

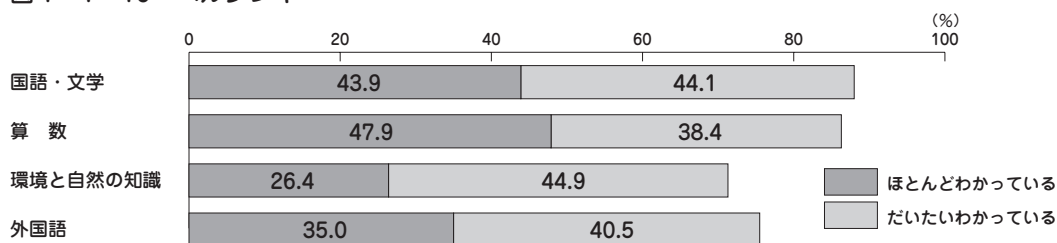
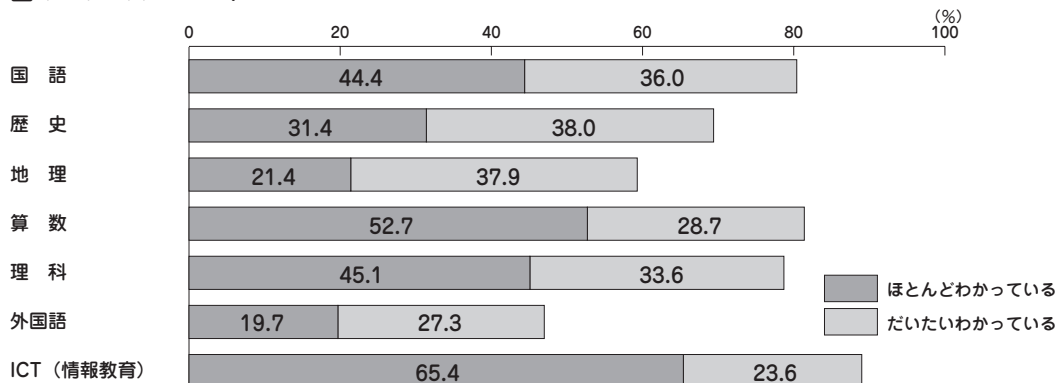
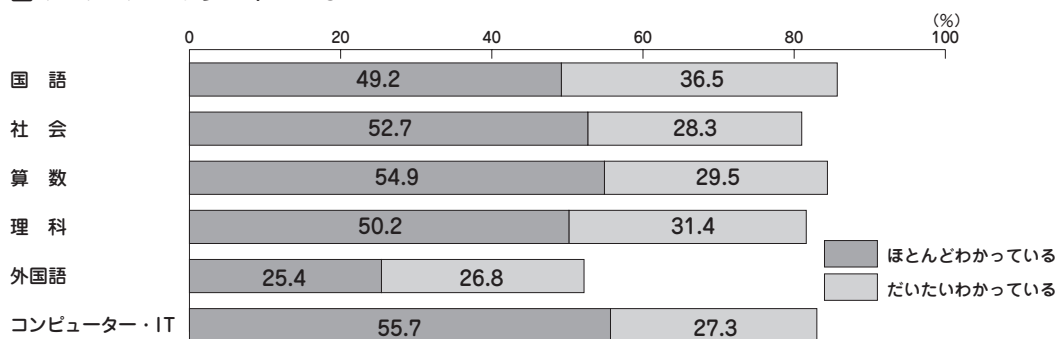


図1-1-11 ロンドン



注) 「外国語 (Modern Foreign Language)」は「履修していない」を除いて集計している (サンプル数は523名) ため、基礎集計表の数値とは異なっている。

図1-1-12 ワシントンDC



注) 「外国語」「コンピューター・IT」は「履修していない」を除いて集計している (サンプル数はそれぞれ、291名、864名) ため、基礎集計表の数値とは異なっている。

授業の理解度について、欧米3都市のそれぞれの特徴をみると、ヘルシンキでは全教科で7～9割弱が「わかっている」と回答している。ロンドンでは5割弱～9割弱で、とくに「地理」(59.3%)、「外国語」(47.0%)を「わかっている」と回答する比率が低い一方、「ICT」(89.0%)が高い。教科によって、

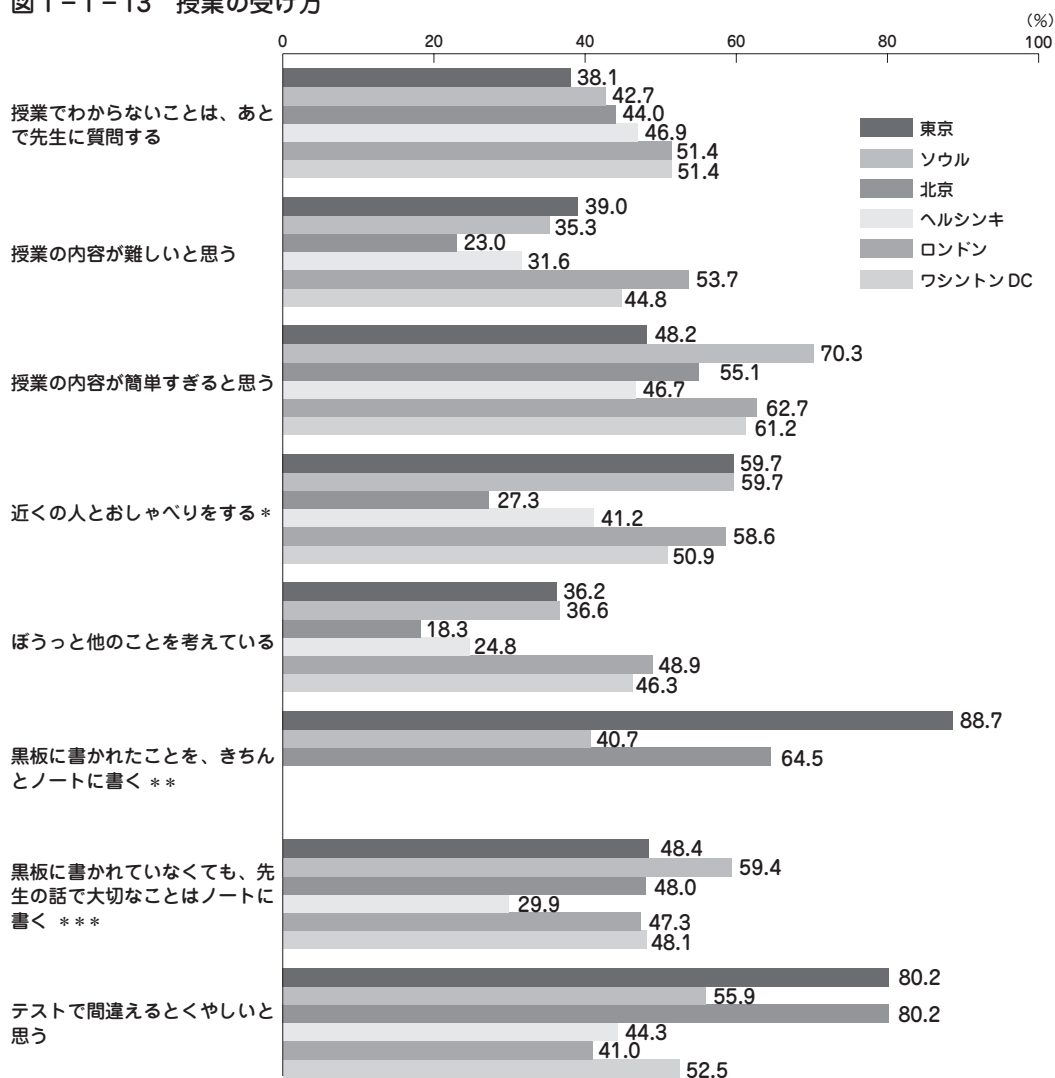
理解度がかなり異なる様子が見られる。ワシントンDCでは「外国語」を「わかっている」と回答するのは5割にとどまり、ロンドンと同様の傾向がみられた。それ以外の教科については、8割以上が「わかっている」と回答している (図1-1-10～12)。

3. 授業の受け方

ロンドンとワシントン DC では、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」の回答割合は5割を超えている一方、「近くの人とおしゃべりをする」「ぼうっと他のことを考えている」小学生も4～6割弱いる。ソウルでは7割の小学生が「授業の内容が簡単すぎると思う」と回答している。東京では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」と回答している比率は88.7%で、東アジア3都市の中でもっとも高い。

Q あなたの授業中の様子についてお聞きします。

図1-1-13 授業の受け方



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) *ソウルは「となりの人とさわいでしまう」。

注3) **ヘルシンキ・ロンドン・ワシントン DCは該当する質問項目なし。

注4) ***ソウルは「先生が説明したことの中で、大事なことは書いておく」。

授業中の様子をたずねてみた。いずれの都市も4割弱～5割（「よくある」+「時々ある」の%、以下同）が「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」と回答している。授業の難易度については、ソウルでは7割が「授業の内容が簡単すぎると思う」と答えている。ロンドンでは「授業の内容が簡単すぎると思う」と回答する小学生が6割いる一方、5割が「授業の内容が難しいと思う」と感じているようである。逸脱行動を示す2項目

（「近くの人とおしゃべりをする」「ぼうっと他のことを考えている」）をみると、北京は比率がもっとも低く（27.3%、18.3%）、授業に集中している様子がわかる。「テストで間違えるとくやしいと思う」では、東京と北京は8割で、6都市の中でもっとも高い。つづいて、ソウルとワシントンDCの5割、ヘルシンキとロンドンの4割の順になっている（図1-1-13）。